

STEP2

基礎

# 基本文型の要素



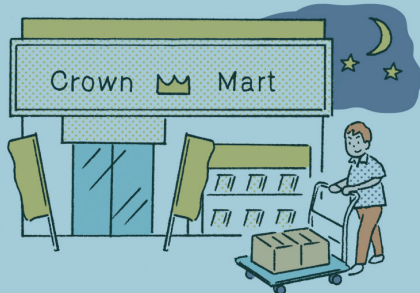
## 1 〈S + V〉 (主語+動詞)

- ① He works at night. 彼は夜働いている。  
           S      V      (M)

25

この文型で使われる動詞は、補語を必要としない**自動詞**。

- 1) 基本要素は**主語 (S)**と**動詞 (V)**のみ。
- 2) 副詞の働きをする**修飾語 (Modifier = M)**を伴うことがある。〔①では at night; 修飾語は基本要素には入れない〕



**類例** 〔用例の斜体字部分は修飾語〕

My brother **lived** *in Sapporo three years ago.*

私の兄は3年前札幌に住んでいました。

My father **teaches** *in college.* 父は大学で教えている。

He **eats** *very slowly.* 彼は食べるのがとても遅い。

The town **lies** *in the center of the island.* その町は島の中央に位置している。

She **studies** *from nine to eleven.* 彼女は9時から11時まで勉強する。

The sun **sets** *in the west.* 太陽は西に沈む。

I'll **think** *about it carefully.* そのことについては慎重に検討します。

A woman *in sunglasses* **was sitting** *on the bench.*

サングラスをかけた女性がベンチに腰かけていた。

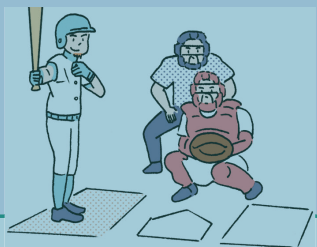
## 2 〈S + V + C〉 (主語+動詞+補語)

- ② Ichiro was a baseball player.  
           S      V      C

イチローは野球選手だった。

- ③ Susan became a nurse at a local hospital. 27  
           S      V      C          (M)

スーザンは地元の病院の看護師になった。



- 1) 基本要素は主語 (S)、動詞 (V)、補語 (C)。
- 2) この文型で使われる動詞は、補語を必要とする自動詞。
- 3) 主語の状態や性質を表すものを補語 (主格補語) と呼ぶ。  
C は S の説明をしているので、S = C と考えることができる。

### 〈S + V + C〉の文型をとる動詞のタイプと用例

#### 1) 「状態」または「状態の持続」を表すもの コーパス

be (…だ, …である), keep ((意図的に) …のままでいる), remain ((依然として) …のままである [いる]), stay ((しばしば意図的に) …のままでいる) など

**類例** I **kept** silent at the meeting. 私は会議の間黙っていた。

You should **remain** seated until the doors open.

扉が開くまで席にお座りのままお待ちください。

#### 2) 「(状態の) 変化」を表すもの コーパス

become (+名詞または形容詞), fall ((意に反して・急に) …になる), get (+形容詞のみ), grow (徐々に…になる), turn ((目に見えて・しばしば急に) …になる) など

**類例** She **became** interested in jazz. 彼女はジャズに興味を持つようになった。

#### 類義 〈状態の変化〉を表す動詞の意味の違い

- ・grow は元の意味が「成長する」なので、時間の变化で少しずつ変化することを表す。
- ・turn は元の意味が「回転する」なので、不意に(重要な性質の部分が)ある状態に変わることを表す。
- ・fall は元の意味が「落ちる」なので、主語がコントロールできない状態に突然変わることを表す。

The boy **grew** stronger every day. その少年は日増しに力強くなっていく。

His face **turned** pale. 彼の顔が青ざめた。

Paul **fell** asleep as soon as he went to bed.

ポールはベッドに入るとすぐに寝入った。



#### 3) 「外見」を表すもの コーパス

appear (…に見える, 思われる, …のようだ), look (…に見える), seem (…に見える, 思われる, …のようだ) など

**類例** I feel sorry for you. お気の毒です。

Natto **smells** horrible. 納豆はひどいにおいがする。

His idea **sounds** interesting. 彼のアイディアは面白そうだ。

This soup **tastes** sour. このスープはすっぱい。

Something **smells** good in the kitchen.

キッチンから何かいいにおいがする。

It may **sound** strange, but it's a fact.

奇妙に聞こえるかもしれないが、それは事実なんだ。

**原理** look, seem, sound, smell, taste など+ 〈like + 名詞〉: これらは, 「…のように見える / 思われる / 聞こえる / におう / 味がする」という意味。〈like + 名詞〉が 1 つの形容詞として働いている。

He **looks like** Brad Pitt. 彼はブラッド・ピットに似ている。

The band **sounds exactly like** the Beatles.

そのバンドの演奏はビートルズにまさにそっくりだ。

Her hair **smells like** cinnamon. 彼女の髪はシナモンのようなにおいがする。

This chocolate **tasted like** strawberry.

そのチョコはイチゴのような味がした。

**ここが Point!** 「taste + 形容詞」と「taste like + 名詞」の違い

“How does it taste?” “It tastes **salty**.” 「それはどんな味がしますか」「塩辛いです」  
〔How に対して, 形容詞 salty が答えになっている〕

“What does it taste **like**?” “It tastes **like chicken**.” 「それは何の味がしますか」「鶏肉の味がします」  
〔What に対して, 名詞 chicken が答えになっている〕

**練習問題 1: 日本語に合うように単語を並び替えなさい**

→解答 p.43

① ユミはしばらく無言のままだった

Yumi ( some / silent / for / remained / time ).

② その声は聞き覚えがある (私には馴染みがあるように聞こえる)

That voice ( familiar / sounds / me / to ).

③ この部屋はとても居心地が良い (と感じる)

I ( comfortable / in / feel / very / this room ).





**類例** I **bought** a book at a nearby bookstore. 私は近所の書店で本を買った。

Tom **left** home for school in the morning.

トムは朝に家を出て、学校に向かった。

They **examined** the situation carefully. 彼らは状況を詳細に分析した。

They **watch** movies every Saturday night.

彼らは毎週土曜の夜に映画を観る。

Beth **baked** a chocolate cake yesterday.

ベスは昨日チョコレートケーキを焼いた。

He **gave** a speech on global warming.

彼は地球温暖化についてのスピーチをした。

My father is **cooking** Christmas dinner for the family.

父は家族のためにクリスマスディナーを作っている。

Jane **wrote** an excellent paper. ジェーンは見事なレポートを書いた。

Sue and I **enjoyed** the cream pie you baked.

あなたが作ったクリームパイを、私とスーがおいしくいただきました。

### ここが Point! 目的語はいつも「…を」と訳してオーケー？

〈SVO〉のパターンを日本語にする場合、目的語は「…を」とすることが多いが、「が、に、で」などの場合もある。

(1) Ken **likes** *drinking* coffee. 健はコーヒーを飲むの が 好きです。

(2) The train **reached** *the station*. 列車が駅 に 到着した。

(3) Our team **lost** *the game* last weekend. 私たちのチームは先週試合 で 負けた。

(4) Tom **resembles** *his grandfather*. トムは彼のおじいさん に 似ている。

Will you **marry** me? ぼくと結婚してくれませんか。

This jacket **fits** you well. このジャケットはサイズがあなたにピッタリだ。

We need to **discuss** the matter immediately.

私たちは即座にその問題について議論しなくてはならない。





## 質問箱 修飾語句は付け足し？

基本要素と言えば、主語 (S)、動詞 (V)、目的語 (O)、補語 (C) の 4 つになります。なので、**修飾語 (Modifier = M)** はあくまでも付け足しだというイメージがあるかもしれません。

しかし、次の用例をみると、

She put some water in the vase.

S      V                  O                  M

彼女は花瓶に水をいくらに入れた。

「彼女は水を入れた」と言うだけでは意味が完結しないことがわかりますね。

つまり、「どこに」(水を) **入れたか**を言わなくてははいけません。

それを示すのが、**修飾語 (Modifier = M)** である in the vase の部分なのです。

**修飾語** の中でも、なくてはならないものとそうでないものがあるというわけですね。言い換えれば、put は「何を」+「どこに」入れたり置いたりしたかを言わなければならない動詞なのです。



2

動詞と文型

### 練習問題 2：日本語に合うように単語を並び替えなさい

→解答 p.44

- ① 昼食を食べながらその件について話し合しましょう

Let's ( the matter / over / discuss / lunch ).

- ② 彼らはあまり (お互いに) 似ていない

( each / don't / resemble / they / other ) very much.

- ③ 私はバスに財布を忘れてしまった

( my wallet / on / I've / the bus / left ).



## 4 〈S + V + O<sub>1</sub> + O<sub>2</sub>〉 (主語+動詞+目的語<sub>1</sub>+目的語<sub>2</sub>)

- ⑦ Anne gave Aretha a dress. アンはアリーサにドレスをあげた。

31

S      V                  O<sub>1</sub>                  O<sub>2</sub>

解答 1 ① Yumi ( remained silent for some time ).

② That voice ( sounds familiar to me ).

③ I ( feel very comfortable in this room ).

8 My father bought me a book. 父は私に本を買ってくれた。→次ページ イラスト

S V O<sub>1</sub> O<sub>2</sub>

32

- 1) 基本要素は主語 (S), 動詞 (V), 目的語 (O)。
- 2) この文型で使われる動詞は、2つの目的語を必要とする他動詞。
- 3) 「誰に」にあたる部分 (O<sub>1</sub>) を間接目的語と呼び、「何を」 (O<sub>2</sub>) にあたる部分を直接目的語と呼ぶ。英語ではこの文型を用いると、「与える」という意味が必ず含意されるようになるため、この文型で用いられる動詞のことを「授与動詞」と呼ぶことがある。



**類例** Susan **paid** us 30 dollars for the T-shirt.

スーザンは T シャツの代金として 30 ドルを私たちに支払ってくれた。

My uncle **brought** me a new bicycle.

おじさんが私に新しい自転車を持ってきてくれた。

Beth **cooked** us a nice meal. ベスは私たちにおいしい食事を作ってくれた。

She **handed** me her dictionary. 彼女は私に辞書を手渡してくれた。

Ken **sent** me an e-mail message. 健は私にメールを送ってくれた。

The latest smartphone **cost** me 100,000 yen.

最新型のスマートフォンは 10 万円した。

**原理** 〈S + V + O<sub>1</sub> + O<sub>2</sub>〉で用いる動詞は、〈S + V + O<sub>2</sub> + 前置詞 + O<sub>1</sub>〉に言い換えられる場合が多い。

⑦' ÷ Anne **gave** a dress to Aretha.

⑧' ÷ My father **bought** a book for me.

**注意しよう!** 直接目的語 O<sub>2</sub> が代名詞の場合



直接目的語が代名詞の場合は、〈S + V + O<sub>2</sub> + to/for + O<sub>1</sub>〉の形をとる。

○ I bought this hat yesterday and I'm going to give it to my father.  
O<sub>2</sub> O<sub>1</sub>

私は昨日この帽子を買い、父に渡すつもりです。

× I bought this hat yesterday and I'm going to give my father it.

解答 2 ① Let's ( discuss the matter over lunch ).

② ( They don't resemble each other ) very much.

③ ( I've left my wallet on the bus ).

## 2) 〈for + 間接目的語〉をとる動詞 コーパス

**buy** (買う), **choose** (選ぶ), **cook** (料理する), **find** (見つける), **get** (手に入れる, 買う), **leave** (残す), **make** (作る), **order** (注文する), **play** (演奏する), **save** (とっておく, 確保する) など

### 英語の原理 売買を表す buy と sell で使われる前置詞の違い



< SVO<sub>2</sub> + 前置詞 + O<sub>1</sub> > の形で使われる前置詞の使い分けはすでに説明したが、この原理はこれら 2 つの動詞にも当てはまる。

**I bought** a tablet **for** my brother. 私は弟にタブレットを買ってやった。

My **brother** sold his tablet **to** a friend of his.

弟は彼のタブレットを友だちの 1 人に売った。

**原理** 1 つめの用例では, buy に「与える」の意は含まれておらず, 〈利益〉を表す for を使うことになる。2 つめの用例では, sell に「(お金と交換に) …を与える」の意が含まれており, 〈S + sell + O<sub>1</sub> + O<sub>2</sub>〉の際に含意されていた「与える」の意を伝えるには 〈到達点〉を表す to で済んでしまう。

**類例** I will **cook** you a nice meal.

→ I will **cook** a nice meal **for** you.

あなたのためにおいしい食事を作ってあげましょう。

She **found** me a fancy notebook.

→ She **found** a fancy notebook **for** me.

彼女は、私のためにかわいいノートを見つけてくれた。

Can you **play** us a song with that guitar?

→ Can you **play** a song with that guitar **for** us?

私たちのためにそこのギターで 1 曲弾いてくれませんか。

Bob **made** me a birthday cake.

→ Bob **made** a birthday cake **for** me.

ボブは私にバースデーケーキを作ってくれました。

I'll **buy** you a drink. → I'll **buy** a drink **for** you.

1 杯おごりましょう。

Check the list!



**練習問題 3: 上の英文と同じ意味になるように、カッコ内に単語を入れなさい**

- ① Mother cooked us lunch. 母は私たち (のため) に昼食を作ってくれました。  
Mother cooked lunch ( ) ( ).

**発展** to か for か→ get の場合

1) 「手に入れる」の意味の get

I will **get** the car **for** you.

あなたのためにその車を手に入れるつもりです。

2) 「届ける」の意味の get

We will **get** the car **to** you by the weekend.

週末までに車をお届けします。

1) では「…のために」という意味の for と、2) では移動先として〈到達点〉を示す to とともに get が使われ、意味が変わってきている。



2

動詞と文型

**原理** cost, take などは〈SVOO〉のみが可能で〈SVO<sub>2</sub> + 前置詞 + O<sub>1</sub>〉は不可。

The latest microwave **cost** me 100,000 yen.

最新型の電子レンジは 10 万円した。

The meeting **took** us the whole afternoon.

会議は午後いっぱいかった。



**発展** この意味の cost や take が S V O<sub>2</sub> to O<sub>1</sub> の文型を取れない理由

そもそも、S V O<sub>2</sub> to O<sub>1</sub> という文型は、「S が原因で O<sub>2</sub> が (S から) O<sub>1</sub> に移動する」という意味を持つ。

Anne **gave** a dress **to** Aretha.

という例文では、Anne が give することによってドレスが Aretha に移動していると考えられる。



しかし、cost の場合は、そのような移動は起こらず、(スマートフォンから) 私のところに 10 万円が移動してくるわけではないので、移動先となる〈到達点〉を表す to を使う表現は避けられる。

一方、SV O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> という文型は「S が原因で O<sub>1</sub> が O<sub>2</sub> を与える」という意味。cost や take にそもそも「与える」の意は含まれず、〈S + V + O<sub>1</sub> + O<sub>2</sub>〉の構文を使うことで、「O<sub>1</sub> に O<sub>2</sub> という負担を与える」という意味になる。

The latest smartphone **cost** me 100,000 yen.

という文で見ると、「最新型のスマートフォン (を買ったこと) が、私に 10 万円を支払うという負担を与えた」ということを表している。

**原理** save が「(労力・時間・金などを)節約する」という意味になる場合, 「S が O<sub>1</sub> に O<sub>2</sub> という節約を与える」ということから〈SVOO〉が可能になる (▶ p.439)。  
Using a dishwasher will **save** you a lot of time.  
食洗器を使えば大いに時間の節約になるでしょう。

**英語の原理** do が SVO<sub>1</sub>O<sub>2</sub> で使われる場合がある

do + 人 + good (利益), harm (害, 損害), damage (損害, 被害), favor (親切な行為) など。〈do good など + to + 人〉の形もある。

**原理** do には昔「与える」という意味があったが, 現代英語では O<sub>2</sub> に来る名詞は非常に限定されている。

A little bit more exercise would **do** you good.

→ A little bit more exercise would **do** good **to** you.

もう少しだけでも運動するといいでしょう。

The typhoon **did** the rice serious damage.

→ The typhoon **did** serious damage **to** the rice.

その台風は稲に深刻な被害を与えた。



## 5 〈S + V + O + C〉 (主語 + 動詞 + 目的語 + 補語)

⑨ The news made her sad. その知らせは彼女を悲しい気持ちにさせた。 33

S V O C

⑩ They call me a fool. 彼らはぼくをばか呼ばわりする。 34

S V O C

- 基本要素は主語 (S), 動詞 (V), 目的語 (O), 補語 (C)。
- この文型で使われる動詞は, 目的語と (目的格) 補語を必要とする他動詞。
- (目的格) 補語 (C) は目的語 (O) の状態や性質を説明している。

⑨では her = sad (She is sad.) という関係が成立しており,

⑩では me = a fool (I am a fool.) という関係が成立している。

## 類義 keep と leave の違い

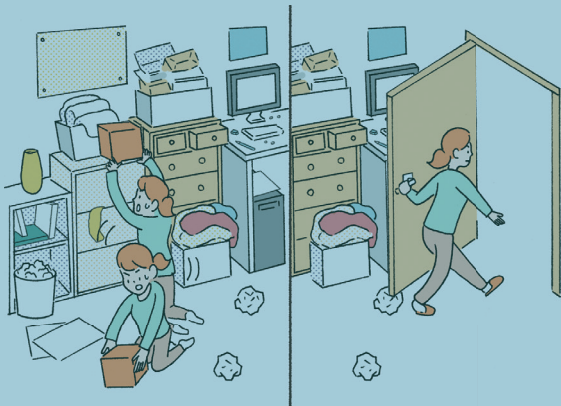
keep : 本来の意味は「**保つ**」なので「意図して O を C の状態にしておく」

leave : 本来の意味は「**後に残して去る**」なので、「O を C の状態に放っておく」

You should **keep** your room clean. 部屋をきれいにしておきなさい。

You can **leave** the room as it is. 部屋はそのままにしておいていいですよ。

上の用例の keep your room clean では、ただ単にそのままにしておくで塵が積もったりして部屋は汚れ、きれいな状態に保つには労力を投入する必要がある。keep が使われている。これに対して、leave the room as it is では「部屋をそのままの状態に放っておく」という意味なので、leave が使われている。ここでは as it is が C。



## 2) call 型 (O を C と呼ぶ) コーパス

appoint (O を C に指名する, 任命する), call (O を C と呼ぶ), choose (O を C に選ぶ), elect (O を C に選挙で選ぶ), name (O を C と名づける) など [C は名詞が多い]

**例** He **named** his dog "Bingo." 彼らは自分のイヌを「ビンゴ」と名づけた。

They **elected** him captain of the team. 彼らは彼をチームのキャプテンに選んだ。[1 人しかない役職が補語になる場合は通例無冠詞]

The student council **appointed** her secretary of the council.

生徒会は彼女を会の書記に任命した。

[1 人しかない役職が補語になる場合は通例無冠詞]

## 3) think 型 (O を C とする) コーパス

believe (O を C と考える, 思う), consider (O を C と考える, 思う), find (O が C だとわかる, O を C とする), think (O を C と考える, 思う) など

**例** I **found** the book interesting. その本はおもしろかった。

Most of the students **thought** her beautiful.

生徒のほとんどは彼女を美人だと思った。

Seven people are **believed** dead in the forest fire.

## ここが Point! SVOO と SVOC の make の区別

次の 2 つの文を比べてみよう。

(1) I will **make** you *an apple pie*. 君にアップルパイを作ってあげます。

(2) I will **make** you *a star*. 君をスターにしてあげるよ。

I will make you までは共通だが、次のような区別が必要。

(1) は you = an apple pie が成り立たないので、〈SVOO〉の文型

(2) は you = a star が成り立つので、〈SVOC〉の文型

make O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> (O<sub>1</sub> に O<sub>2</sub> を作ってやる) O<sub>1</sub> ≠ O<sub>2</sub>

make O C (O を C にする) O = C

Check the meaning!



2

動詞と文型

## ここが Point! SVOO と SVOC の call の区別

次の 2 つの文を比べてみよう。

(1) I will **call** you a taxi. あなたにタクシーを呼びましょう。

(2) I will **call** you Liz. あなたをリズと呼びましょう。

I will call you までは共通だが、次のような区別が必要。

(1) は you = a taxi ではないので 〈SVOO〉の文型

(2) は you = Liz なので 〈SVOC〉の文型

call O<sub>1</sub> O<sub>2</sub> (O<sub>1</sub> に O<sub>2</sub> を呼んでやる) O<sub>1</sub> ≠ O<sub>2</sub>

call O C (O を C と呼ぶ) O = C



## 6 〈There + be 動詞+主語〉

11 There is a convenience store *near the station.*

35

V S (M)

駅の近くにコンビニがあります。

12 There are many international students *in our school.*

36

V S (M)

うちの学校には留学生が多数います。

〈There + be 動詞+主語〉の形は、「…がある、いる」と言いたいときに使われる。

there は「そこに」という意味はなく、形式的な主語の働きをしており、実質的な主語は be 動詞の直後にくる名詞 (句)。実質的な主語が単数の場合は 〈there is ...〉となり、複数の場合は 〈there are ...〉となる。疑問文、否定文は次のようになる。

(1) 疑問文 : **Is [Are] there ...?** (▶第 14 章)**Is there** a convenience store near the station?**Are there** many international students in our school?(2) 否定文 : **There isn't [aren't] ....** (▶第 15 章)**There isn't** a convenience store near the station.

(cf. There is no convenience store near the station.)

**There aren't** many international students in our school.**類例** **There are** several left-handed batters on our team.

我がチームには左打者が何人かいます。

**There was** nobody in the library. 図書館には誰もいなかった。**There were** a lot of students in the gym.

体育館にはたくさんの生徒がいた。

**Is there** an Italian restaurant near this station?

この駅の近くにはイタリア料理店がありますか。

**コーパス** there の後に be 動詞以外の動詞が使われることもある。

## 1) 〈存在〉を表す動詞 :

**exist** (いる, ある, 存在する), **live** (住んでいる, 暮らしている), **remain** (ある, 残っている) など

## 2) 〈発生・移動〉を表す動詞 :

**appear** (現れる), **come** (やって来る, 現れる), **happen** (起こる, 生じる) など**There lived** a family with three children in this house.

その家には子どもが 3 人いる家族が住んでいた。

Suddenly **there came** thunder and lightning. 突然雷鳴がとどろき稲光が走った。**原理** there 構文は, 新しい情報を導入するために用いられるので, 通例主語には定冠詞を伴わないが, 既知の問題を相手に気づかせる場合などに, 定冠詞つきの名詞句が用いられることもある。Then there is **the problem** of how to maintain the quality.

そこで問題になるのが, いかにして品質を維持するのかということだ。



**発展** there の置かれる位置

there は形式的な主語として機能するので、様々な構文の意味上の主語の位置に置くことができる。

It is not unusual for **there** to be a delay in answering letters.

手紙の返信に遅延があることは珍しいことではない。

Let **there** be light. 光あれ。〔聖書の『創世記』より〕

I don't want **there** to be any trouble. 《ややかたく》もめ事はあつて欲しくない。

**There** being nothing else to do, we went home. 《ややかたく》

ほかにする事が無かったので帰宅した。